



日独交流150周年特別講演会

ドイツ連邦共和国 ヴルフ大統領講演

2011 年 10 月 25 日(火)

筑波大学大学会館ホール

【ゴルフ大統領講演】

山田学長、ご出席の皆様、そして筑波大学で学んでおられる学生の皆様、このたび筑波大学の名誉博士号を授与していただいたことは私にとってこの上ない荣誉です。心から感謝申し上げます。

筑波大学には私の希望を聞き入れていただき、学生の皆様との質疑応答の時間を取るため、そしてこの後、被災地へ向かうために時間の制限があり、オフィシャルなセレモニーを省いてくださったことを心より感謝申し上げます。3月11日の東日本大震災は、日本だけでなく世界の人々を非常に大きな悲しみに突き落としました。私たちは日本の皆様のすばらしい力、勇気に尊敬の念を抱き、心よりの連帯の気持ちを示すものです。

筑波大学はオリンピックのゴールドメダリスト、3人のノーベル賞受賞者が輩出し、自然科学、人文科学、社会科学の優れた学習により企業との研究をも促進している大学として知られており、日本を代表する研究機関です。ドイツはすでに長年にわたり筑波大学と信頼関係を築いており、ドイツには大学の代表機関もあります。そんな大学の名誉博士として貴大学と私が祖国の密接なつながりの一端を担うことは大変大きな喜びです。

ドイツとのすばらしい協力関係を示すべく、貴大学の卒業生が2人、今回のデレゲーションに参加しています。井上教授はベルリンで化学を研究しておられ、そして数カ月前に日本の女子サッカーチームの一員として世界タイトルを獲得した安藤選手は現在、ドイツのデュイスブルクで活躍しておられます。このお二人が今回、貴大学の卒業生として、私のドイツからのデレゲーションのメンバーとして参加してくださったことは、私も大変うれしく思っております。

安藤選手は筑波大学でスポーツ科学を学ばれました。安藤選手、立っていただけますか。世界を代表するすばらしい女子サッカー選手です。先ほど安藤選手が学生時代に住んでいた寮の場所も教えていただきました。このようにすばらしい卒業生が輩出している大学、そして野田首相の息子さんもこちらで学ばれていると伺いました。間違いなく日本を代表するトップクラスの大学です。

ドイツと日本には多くの共通点があります。その両国の良き関係をうまく活用し、さまざまな問題の解決を導き出すことができると私は確信しています。問題を解決するために日本とドイツはそれを大きなチャレンジととらえ、そこには多くの可能性があります。世界中で伸びているエネルギー需要をどのように満たすのか、食糧難をどのように克服していくのか、モビリティの要求にどのように応えていくのか、医療や健康問題にどのように立ち向かっていくのか。日本とドイツがともに解決策を導き出すことのできる分野、研究を進めていく分野は数限りなくあり、日独研究国としても大きな貢献を果たすことができると確信しています。

先ほどロビーで開催しているナノアート展を拝見してまいりました。大変印象深いものでした。美的に優れているのみならず、ナノテクノロジー応用の魅力を見事に紹介しています。機能性や耐久性を高めながらも、素材とエネルギーを節約する部材など、この技術の持つ可能性のすばらしさを感じさせました。成長を追いつつも、資源の枯渇にも対応していくためには、すばらしい技術であると確信いたしました。

私が最初に申し上げたいテーマは、例えばこうしたナノテクノロジーのように、技術革新に感動する心というものを大切にしなければならないということです。日本には進歩に対する非常に優れた精神があり、そこからはドイツも学ぶことがたくさんあるでしょう。

生物、物理、化学、人文科学をうまく組み合わせることが必要だと思います。さまざまな専門分野

の協力関係からこそ、今日重要なイノベーションが生まれるのです。

コンピューターの機能は向上し続け、新たな素材や製造方法によって、人類に全く新しい可能性を切り開いてくれるでしょう。人工知能と人間の知能の組み合わせの可能性に魅了されるのは、SF 作家だけではなくありません。

また医学における多くの可能性も、もはや SF の世界の話ではなくなりつつあります。不治の病とされていた多くの疾病もいまでは治癒できるようになりました。しかし一方で、医学は進歩が人生の基本的なパラメータをシフトさせる可能性のある分野の一つでもあります。幹細胞研究や遺伝子の研究、そしてそこへの介入は多大な治癒の可能性をもたらすのみならず、人間の命の価値と尊厳をめぐる基本的な議論の火種ともなります。

私の 2 番目のテーゼは、技術の進歩を常に倫理面の基本的問題に照らし合わせなければならないというものです。技術的に可能なことを人間はすべて実現してもよいということではないのです。こうした視点を社会で幅広く議論することが重要であると考えます。そのためには優れた科学ジャーナリズムも必要であり、ドイツにあるような学際的な倫理協議会も必要でしょう。

私の 3 番目のテーゼは、どのような技術を認可し、禁止するのか、そうした決定を下すためには選ばれた国民の代表が必要だということです。国民の代表として民主的に選ばれた者だけが、こうした重要な決断を下すことができるのです。

技術的進歩がもたらす影響に関する議論は、福島で起きた事故とも向き合わなければならないものです。ドイツでは、原子力エネルギーに対する責任を負えるか否かという議論が 1986 年のチェルノブイリの事故の際にわき起こり、ドイツは新たな原子力発電所の建設を中止しました。そして今回、世界でもハイテク国として知られ、最高レベルの技術的基準を設けて、最新の技術力を有する日本でこうした事故が起きたということが、ドイツをして原子力発電所の稼働期間の延長をあきらめ、2022 年までにすべての原子力発電所を停止するという決断に至らせたのです。

これまで想定外であったことをも考えなければならないということを今回の大震災は示しました。この講演の後、私はいわき市を訪問し、原発事故のために避難を余儀なくされた皆様とお話をいたします。今回の事故の負担を最前線で背負わされている方々です。私たちの連帯を示さなければなりません。

一つの社会全体が、原子力産業に限らず、技術手段に伴う事故のリスクを引き受ける用意があるか否かはきわめて難しい判断です。どの社会もこの難しい決定を自ら下さなければなりません。他国の決定にある国が介入することがあってはなりませんが、国際社会は必要な基準と監視方法について合意しなければならないと私は考えます。そのためには国境を超えた情報の交換、交流が必要であり、時間と率直な議論が必要でしょう。

脱原子力エネルギー、そしてその代替を模索するというドイツの決定は、100 年プロジェクトです。しかし、1960 年代のアメリカの人類月面着陸プロジェクトと異なり、月面着陸の成功を伝えるテレビ映像は、この脱原子力エネルギーというプロジェクトにはありません。ドイツにおけるエネルギー転換は一步步着実に進められています。しかし、代替エネルギーをもってすれば、私たちはエネルギー需要を十分に満たすことができるのです。

エネルギー効率という概念は日本でも浸透しており、日本企業はこの分野のアヴァンギャルドとも言えます。1973 年のオイル・ショック以来、多くの日本企業がエネルギー効率について取り組んできました。

もし日本でなければ、これほどの規模の大震災にはたして耐えられたかということを、私は常に考えています。日本においては、津波の予報、適切な建設物、避難、こういった点で世界のベンチマークになっています。そういう意味で、一定の自然の破壊力を技術の進歩と社会の組織によっていかに緩和できるのかがわかっています。したがって、日本に対しては批判ではなく、最大の賛辞が送られるべきだと思います。ドイツの研究者が日本の仲間とともにドイツの研究船で東北沿岸部の海底を測量する予定ですが、まさに津波の警報に役立つことが期待されています。

ここで第 4 のテーゼとなりますが、進歩は常にサステナブルであるかどうかで評価されなければなりません。社会民主主義者のベルンシュタインは 100 年以上も前に、資源消費の急増に対して、私たちはいま地球の資源を濫用していると言っていました。ドイツの哲学者ハンス・ヨナスは、「汝の行いの結果が人間の純粋生命の永続と調和するように行為せよ」と簡潔に言い表しています。すべての世界の宗教には基本的に、自分にしてほしいことをほかの人にしてはならないという趣旨のことがあっていると思います。したがって、人間は自然に対しても、それを濫用するようなことをしてはいけません。

日本に来るたびに、日本の人たちが環境、自然といかに緊密な関係を持っているかということをよく感じます。日本の皆様は自然の一部と感じていらっしゃると思います。私は明日、世界でも最も古い神社、伊勢神宮に参ります。ベルリンでは、皇太子殿下と桜を記念植樹いたしました。それによって毎年、自然が何を人間にもたらしてくれるかということに思いをいたそうということです。しかし、自然は人間に対して大きな破壊ももたらすと言えます。

技術の進歩が私たちの社会に何をもたらしたのかを考えると、寿命が長くなり、健康に生きられるといったことがプラスと言えますが、だからといって私たちは地上に極楽をつくり上げたわけではなく、仕事のストレスはますます増える一方です。また学校でのストレスも非常に高くなっており、これは先進国共通の現象だと思います。

ドイツではいまバーンアウト症候群が注目を集めており、これは短い期間に業績を上げなければいけないといったストレスのために生まれてきています。日本においても社会の高齢化によって、こういった人たちの世話を誰がするのでしょうか。そういったことを考えたときには、高齢者介護でロボットの果たせる役割というのも日本の方々との議論によくなっています。

こうした問題を超えて進歩が私たちを幸せにしてくれたのかを考えてみたときに、進歩というのは成長率、1 人当たりの所得などの数字だけでなく、一人ひとりの個人的・社会的要求、あるいは社会のまとめ、創造性の維持などにも目を向けて評価しなければいけないと思います。心理的な側面から見ると、心に感じる豊かさと物質的な豊かさというのは一定までしか連動していません。たくさん消費すれば幸せになるというのは間違いです。自民党の党歌では、「一人の幸福 皆の幸福」とうたわれています。私はこれを大変興味深く聞きました。

ドイツでは議会で、成長と豊かさ、そしてクオリティー・オブ・ライフの相互関係を検討する調査委員会を発足させています。人々の幸せ、豊かさの実感がこれからもっと注目されていかなければいけないと思います。ドイツ日本研究所は、いま、「日本における幸せ」をテーマに、おもしろいプロジェクトを実施しています。

興味深いことに、精神科医の土居健郎は余暇の考察において、ヨゼフ・ピーパーの『余暇と祝祭』を参考にしており、哲学者ハイデガーは環境、技術の叙述では、日本的な自然の理解に影響を受けています。

そうした中で、いまの世代と将来の世代との関係においても、フェア、公正、正義が非常に重要な側面になっています。これは人間の根源的要求だと思います。

ある社会というのは、皆が幸せに生きられるための最も大事なベースになります。日本とドイツはこの点で非常に豊かな社会資本を持っています。互いを支える、そして互いを理解するという点で優れた資質を持っていると思うのです。日本は非常に狭い土地にたくさんの人が住んでいます。ドイツもアメリカと比べると人口密度が高い。日本の人たちは初めから、人々が平和に住むためには、近隣に配慮することが最も良い方法であるとよく知っていました。ドイツでも隣人愛を実践してきたところからです。

いまの技術の進歩は、人間の進歩がなかなか付いていきにくいところまで行っていると思います。ドイツの未来学者、オパショフスキーは、人類史全体を 800 という数字で表し、そのうちの 650 の期間、人間は洞窟で暮らしていたと言っています。文字が生まれたのは最後の 70 ほど、最後の 8 になってようやく書物が出てきたというわけです。ですから技術の進歩については、そのリスクと益を測るというかたちでのストレステストをする必要があると思います。

そこで 6 番目のテーゼになりますが、このストレステストは実は誰でもできるのです。選挙民ならば誰を選ぶのか、どの党に票を投じるのか、消費者としては何をかうのか、使うのかを選択することによって、このようなテストをすることができます。

日本あるいはドイツのようなハイテク国について私がよく考えるのは、ドイツ人は新しい技術に批判的であると言われています。イギリス人のワトソンは、ドイツの技術のすばらしさについてたまたま本を書いています。ドイツ人には新しい技術をなかなか取り入れない姿勢があると言われますが、それはもしかしたら少しは良い役割も果たしているのかもしれない。つまり、技術が環境全体を破壊することになった場合、その環境が人間に影響を与えるわけですから。ワトソン氏はこうも言っています。「技術、科学は哲学的な考察の中から進んでいかなければいけない道である」。数学、情報工学、さまざまな学問がありますが、その進歩のためには、人文科学が必要です。この二つの間に境界をつくるのではなく、二つの学問領域を密接に結び付け、そしてその根幹に倫理を置くことによって、正しい発展が得られると考えます。

この筑波大学の英語のモットーは、IMAGINE THE FUTURE です。これは日本人とドイツ人が手を携えて共にできることだと思います。未来を創造的に作り上げていくということです。

ここで 7 番目の最後のテーゼになります。未来の方向性を決定づけるために日独の協力が非常に重要だということです。文化、そして自治体、企業といった機関に両国の研究者が協力していくことになれば、私たち両国は世界の中でも、研究だけをするのではなく、ものづくりをきちんと行う国として確固たる地位を維持していくことができるでしょう。なおかつ環境を破壊することなく、資源を濫用することなく、その目標を達成することができると思います。人間の生活の改善には、現実世界で画期的な製品、製造方法が要るのです。

私は若い人たちを信頼しようと思っています。私の世代が間違った、あるいは不十分だったことに對して、若い世代は正しい方向に力を尽くしていくことができると思います。世界の第 3、第 4 位の経済国、この二つの国が研究の中で協力していくことで将来をつくり上げていくことができるでしょう。日独はこうした発展に最もすばらしい前提条件を備えた国であると思います。

この筑波大学で、あるいはドイツのボン、デュイスブルクなどで勉強される皆さんが、未来に向けて熱意を持って世界の問題を解決するために進んでほしいし、できると思っています。世界の人

口はますます増えていく。それによって食糧問題などが生まれてきます。その他のさまざまな危機的な問題がありますが、そうした危機の中から、若い皆様方がそれをチャンスとして、すばらしい発展を達成していただきたいと思います。そしてその中で、ドイツが日本から学べることは何か、またその逆方向についてもお互いの協力を進めていただきたいと思います。

筑波大学は、もともと東京にあった大学が筑波に移り、いま大きく発展されています。今後ともその発展が続くように心から願っており、またこの後の相互の対話を楽しみにしております。ありがとうございました。

【質疑応答】

質問1) 医学類 3 年の T と申します。大統領閣下、今日は詳しい講演をありがとうございました。大統領のお話の中に、近隣に配慮するとか、科学技術と人文科学の密接さの中に倫理的な根幹が必要だというお話がありましたが、実際の世界の中では、異なった宗教、価値観、倫理観を持っていて、容易に理解できない隣人があるというのも事実だと思います。そういった場合にはどのように対処すればよいのでしょうか。

質問2) 人文社会科学部研究科 D.T.です。日本へようこそお越しくさいました。特に茨城、筑波にお越しいただき、うれしく思います。お目にかかれて光栄です。私はボンで 2 年間、勉強してきました。ボン大学では、多くの学生が日本学を勉強しています。そして日本に来たい、筑波大学で学びたいと考えています。しかし来ることができません。それはいくつかの問題があるからです。一つは財政的なこと、一つは時間的なこと、そして一つは制度のハードルです。私の質問は、連邦大統領は日本の大学に何を期待されていますか。本日はお越しいただき、お礼を申し上げます。

質問3) 今日はすばらしい講演をありがとうございます。国際総合学類の K と申します。大統領閣下がおっしゃったように、日独の双方でいま代替エネルギーの模索、あるいはエネルギー問題が大きな課題になっていると思います。そこで具体的にどういった日独の協力、交流が重要になってくるとお考えかお聞かせいただけますか。

ゴルフ大統領の回答) ご質問の順番に従って、T さんのご質問からお答えしましょう。世界のさまざまな国がある中で、人間にとって必要な倫理をどのように維持していくのかということです。

一つには他者に対するオープンな気持ち、心を持たなければなりません。すなわち、すべての隣人の立場になって、彼らの行動の背後に何があるのか、何がその原点なのかを考えることです。交流をする中で、疎外という気持ちを持ってしまうと、それができなくなります。

私は数週間後にカタールのドーハにおいて、文化連合という国連加盟国の 100 カ国以上が参加する会合の場でお話をする予定です。それは文化の違い、出自の違い、宗教の違いを超えて、最

低限、ミニマルな倫理観をどのように見いだしていくかについて話をします。世界各国すべての人間にとって約束されていなければならないミニマル倫理というものを見つけ出すことが、隣人との相互理解に不可欠だと思っています。

もしある国が制度的に人権に反する行動を取っている場合、それは国際社会によって制裁を受けるべきものです。そうした国あるいはその代表と単に経済分野でのみ理解し合い、そのほかのことに目をつぶるのではなく、積極的にこうした問題にも目を向け取り上げていくことが必要です。法治国家、法の支配、人権擁護という問題を積極的に取り上げなければなりません。

私は日本、インドと共同して国連の改革を進めようと考えています。国連の場合でも、人権がより一層重要視される状況をつくらなければなりません。T さんがいま挙げた問題というのは非常に難しい、そして重要な問題です。それぞれの国が内向きになってしまう、ナショナル化が進んでしまう傾向も場合によっては見受けられます。とりわけそうした国が目立つ状況にいまはありますが、決してそれが正しい道のりだとは思いません。

日本は非常に誇り高い、バランスの取れた国です。そして愛国心をも持ち合わせています。今年ちょうど 150 年前に、日本の鎖国が解かれ、当時はプロイセンですが、ドイツとの条約が結ばれた記念の年になります。この 150 年間にどれほど多くのすばらしい関係や交流が生まれてきたかを考えると大変心強い思いがしますし、その関係をこれからも強化していきたいと思っています。

二つ目の質問にこのままつながりますが、私は国際交流、特に若い世代の交流に費やされる 1 円、1 ユーロが必ずそれ以上の価値をもたらすと確信しています。1 円、1 ユーロがその何倍もの価値を持って将来返ってくるのです。私たちはいまほど密な交流を必要としているときはないと言ってもいいと思います。日本語のできるドイツ人、日本を知っているドイツ人は誰であっても、ドイツだけでなく、世界にとって大きな価値となり、大きな貢献をなすのです。いま現在、日本大使を務めておられるシュタンツェル大使は、25 年前、ドイツで日本を学んだ学生として日本にやってきました。そうした日本語のできる大使の貢献なども非常に重要です。複数の言葉、複数の文化を知っている学生がもたらす価値は計り知れないものがあります。

そして日本とドイツの再生可能エネルギーあるいはエネルギー分野での協力関係ですが、私は自動車産業とも長年関わりがあり、エネルギーの蓄電技術こそが日独にとって重要なテーマだと思います。バッテリー、蓄電池に関しては少しないがしろにされていた時代もありましたが、いま日本はまさにリチウム電池の技術に関しては世界の最先端を行く国です。風力や太陽光などを使って電気をつくり、風が吹かなくても、太陽の日が差していなくても、夜であっても、日中の、あるいは風が吹いている間の電気を蓄電することができれば、それは非常に大きな今後の手助けとなるでしょう。まさに日独はこうしたテクノロジーの分野で協力できると思います。

ドイツは風力発電が非常に盛んに行われており、以前では考えられなかったレベルまで風力を利用した発電が可能になっています。とりわけオフショア風力発電は 30 年前までは考えられなかったほどの規模になっています。景観を損ねるという多少のデメリットはあったかもしれませんが、そのほかの発電所などに比べると、風力発電、とりわけオフショア風力発電は環境に優しい代替エネルギーとして重要です。水力等も組み合わせた再生可能エネルギーの利用は間違いなく 100% エネルギー需要を賄うことができます。

100 年後の未来の人たちが 100 年前の私たちを振り返って評価をするのです。私たちが何をしてきたのか、何を彼らに残すのか。石油が枯渇する中で、私たちが石油を使い尽くし、CO₂ を排出し、

気候変動を生み出し、海面の水位を上昇させたというのが、石油を燃やしたという理由に尽きると知ったら、未来の人たちは何を考えるでしょうか。代替のテクノロジーがいくらでもあるのに、あえて石油を使ったということを未来の人たちにどのように評価されるでしょうか。

そこで私たちは倫理観を持って自然に配慮し、CO₂を排出する石油を燃やす以外のエネルギー生産の方法を考えるべきだし、十分なテクノロジーがあるのだから、それを促進するべきだと思います。まさに若い皆さんこそ、この点を深刻に考えていただきたい。申し上げたように、日本の蓄電技術、ドイツの風力技術を組み合わせれば、素晴らしい未来が待っていると思います。

質問4) 今日は大変貴重なお話をありがとうございます。社会学類のO申します。現在、企業の人材についての卒業論文を書いています。その中で外国人の割合の多い外資系企業の方にインタビューしたところ、3月11日以降、海外からの人材が大幅に減ってしまい、いま徐々に回復しつつあるのですが、新しい人材はヨーロッパではなくアジアの方が中心とのことでした。震災から半年以上たったいま、ドイツの方々は日本をどのように見ているのかについて教えてください。

質問5) 本日は貴重な講演をありがとうございます。私は国際総合学類4年次のH申します。国際社会の持続発展に向けて技術の進歩は欠かせないと思いますが、技術の進歩に伴って、さまざまな壁にぶち当たると思います。その際、どのように技術の進歩とのバランス、または技術の進歩に反対する意見の人たちとのバランスを取っていくのかを伺いたと思います。よろしくお願いします。

ウルフ大統領の回答) 二つ目の質問は大変複雑ですが、基本的な側面を含んでいると思います。どのようにしてバランスを取ったらよいのかということですが、特にアジアにおいては考え方のヒントがあると思います。調和に関してさまざまな考えが巡らされています。ですからまさに日本において、環境の調和についてたくさんのヒントを得ることができました。

オクヤマさんの質問で、ドイツ人はいま日本をどう見ているのか。震災の前、震災の後ということで、ここでは簡単にお答えしておきたいと思います。震災前について言えば、ドイツは旧東独、旧西独の二つに分かれていたわけで、ドイツをまとめることに力を注ぎ、また鉄のカーテンがなくなって以降は、ヨーロッパ全体を統一するために重要な役割を持っていたので、平和・友好をモットーに調和を取っていくことにエネルギーを注ぎました。お互いに敵対していた人たちに対しても許しを与える、そしてドイツの犯罪についてもその歴史的な問題に取り組んできました。今日、かつて敵対した国々と平和に共生できていることをドイツ人は大変幸せだと考えています。

さらに重要性を増してきている国々と新しい関係を結んでいくことにも力を注ぎました。ドイツ、日本の世界における相対的な地位は下がってきていると思います。中国、インドネシア、人口も資源も多く、経済も著しく成長している。世界の中での重みを増しています。ドイツ、日本、ヨーロッパは条件が変わっていく世界の中で生き残っていかなければいけない、そして今後とも幸せにしなければいけない。それを実現するのは大変難しい課題です。

そうした努力をすると、もともとは良い友達であった人たちに対しての注目度が下がってしまうという

ことがややもするとあると思います。ドイツ人はロシア、中国、インドネシアなどに一生懸命目を向けてきたわけで、日本は友人であるにもかかわらず、日本のことは毎日考えないということになると思います。日本にとっても、ドイツは友達ですが、アメリカが大事なので、アメリカといういろいろやっているうちに、ドイツのことを毎日考えているわけにはいかないというのが実情だったと思います。

震災前は世界第 3 の経済大国、技術的には素晴らしいイノベーションをする、世界の中で信頼の置けるパートナーである、世界にとって重要な国である。そのように大事な日本であるからこそ、私は今回、シンガポールや香港などに行くのではなく、6 日間もかけて日本だけを訪問しているわけです。

先週の月曜日、火曜日はアフガニスタンに行っていました。アフガニスタンのカルザイ大統領をカブールに訪問しましたが、いま非常に難しい状況にあられます。そこで彼は日本の役割を大変高く評価されていました。国の再建のために 50 億ドルも提供してくださったと言っておられます。法治国家の確立、治安の確保のために、日本がこれだけの貢献を果たしているわけで、そうしたことがドイツにおける日本像にも影響を与えています。世界に対して責任を共に果たしていける国であると見ているのです。

3 月 11 日の震災によって、非常に大きな出来事でしたので、日本に対する見方が変わったというのは確かです。日本には大変深刻な問題が発生しており、地域によってはそのために本当に困っているところがあると思います。ですからどういった問題があって、何をこれまで解決し、何がこれから必要かというのをもっと外に発信していく必要があります。

そこで私の訪問の意味もあるわけで、ここでの放射線量はガイガーカウンターできちんと測っています。この数値はドイツよりも低いのです。もちろん福島県あるいは 20 キロ圏は別だと思いますが、それ以外では日本の一般的な放射線のレベルは低いということについても、正直に透明なかたちで情報を提供していかなければいけません。というのは、1 回でも間違ったことを言ってしまうと、日本に対する信頼を揺るがすことになるので、透明に正直な情報を出すことが大事です。また日本は被災地以外では日常が正常化しており、普通の状態に戻っているということも外にはっきりと言わなければいけません。日本全土が被災地であるかのように表現してはならないと思います。

今回はたくさんのジャーナリストたちを同行してきているので、日本の真の姿をドイツに伝えることができます。それをぜひともしなければいけません。日本は力強い経済国家であって、それを支えるのは優れた人たちであり、そういった人たちと今後とも協力することができる、そして日本で勉強するのはいいことだとドイツに帰って伝えていきたいと思っています。そのことによってドイツ人は日本に帰ってくるでしょう。ですからドイツは皆様と共にあるということを確認していただいて結構です。

質問6) 本日はさまざまな分野にわたるお話を本当にありがとうございました。私は人文社会科学研究科で法律を勉強している F と申します。先ほど大統領閣下のお話にもありましたように、技術やエネルギー革新のさまざまな分野で協力を進めていくためにも、人的な交流が必要だと思っています。今後、日本の発展のためにも、日本の中の国際化を進めていくことが必要であるという議論がされていますが、外国人にとっても住みやすい社会をつくっていくのがこれからの重要な課題だと認識しています。しかし日本は外国人を受け入れることに対して少し保守的であり、異なる文化、背景、ルーツ、習慣、宗教を持つ人たちとどのように共に生きていくかというのはとても重要な課題です。

この移民問題に対して、日本ではどのように共存するかという共存のあり方について具体的な方針を定めずに、現在も問題が山積みになっています。ドイツは日本と比べて移民を受け入れてきた歴史も経験も豊富だと思います。大統領閣下は「イスラム教もドイツの一部です」とおっしゃったと聞いたことがあります。移民を受け入れる、そして受け入れた移民と共に生きていくために、どこに軸を置いて課題について取り組んでいったらいいかということについて、日本に対してアドバイス、あるいは大統領閣下のご意見を伺えればと思います。よろしくお願いします。

ヴルフ大統領の回答） ご質問ありがとうございます。ドイツの状況をよく承知していらして、ドイツでどのような議論が交わされているかを大変よく勉強していらっしゃることに感心しました。短くお答えできると思います。

ドイツで外国人の一番少ないところには、外国人に対する懸念や不安があります。それは外国人と良い経験をしたことがないからです。問題があるのは常に外国人に対して不安があるということもそうですが、そもそも外国人と交流し触れ合った経験がないということが問題なのです。

ドイツの経験から申し上げられることは、これまで外国の方があまりいらっしゃらなかった日本、これといった具体的な移民政策がなかった国であれば、少し慎重になるのは仕方のないことだと思います。

私の提案としてお勧めしたいのは、日本に来る誰をも一人の人間としてまず見ることです。例えば労働力や将来の年金制度を支えてくれる人として見るのではなく、人間として見ましょう。尊厳を持つ一人の個人として、その人と向き合うことです。

他者との共存、共生は両者にとっての問題だということを認識してください。受け入れる側にとってだけでなく、そこに来る人にとっても自分の価値観が認められることが大切です。やってくる外国人、その人の言語、宗教、文化をきちんと尊厳を持って認めることです。彼らに対して、受け入れる側の社会に統合しなさい、合わせなさいということを求めているはいけません。

一つの社会の中で、そうした人たちが独自の社会をつくってしまうこともあります。つまり、二つの社会、二つのグループが併存することもあります。それを避けなくてはなりません。ドイツはその間違いを犯しました。50 年も前にトルコから労働力として外国人を招きましたが、労働力としての役目が終わったら帰国すると考えていたのです。彼らが家族を持ち、親戚を呼び寄せ、彼らなりの宗教を持ったグループだと気づくのが遅すぎました。いまやドイツの社会の一端を担う重要な同じ国民であり、国の繁栄にも寄与していることに気づくまでに時間がかかってしまいました。

もちろんドイツでは移民政策、統合政策がすべてうまくいっているわけではなく、困難もあります。しかし皆様にお勧めしたいのは、とにかく慎重に注意深くこの問題と向き合い、受け入れる側だけの問題ではなく、やってくる人たちも同じ気持ち、不安や問題を持っているということを考えてください。

ドイツ連邦大統領として、ドイツ各地に独日協会が 60 以上ありますが、そういったところにお招きいただいて、日本酒を振る舞っていただくのを大変うれしく思います。ニーダーザクセン州のワッペンには白い馬が描かれています。これが日本では白馬という教えてもらい、白馬クラブをつくりました。私がニーダーザクセンの州首相時代です。ニーダーザクセン州には日本人はそれほど多くないのですが、それでも白馬クラブをつくり、日本の皆さんと交流しています。ぜひ日本でもビールクラブをつくっていただいて、ドイツのビールやサッカーなどを話題にいただければと思います。

いま現在、ベルリンで日本人の科学者として研究していらっしゃる井上さんが会場にいらっしやいま

す。そして安藤選手がデュイスブルクで活躍していращやるのも、その背景にはデュイスブルク大学と筑波大学との関係があったからこそだと思っています。もし安藤選手がドイツのナショナルチームで活躍してくださってれば、ドイツが優勝していたかもしれないなどと思ってしまいます。2014 年、世界選手権がブラジルで行われますが、ドイツのナショナルチームにも、いまはドイツ国籍を持つ移民の方がいなければ、勝ち上がるチャンスはそもそもないと思います。でも安藤選手は日本人でいてくださいね。そうしないと私たちがドイツサッカーチームに取り入れてしまいますよ。優秀な人材を巡って、たくさんの方たちが競争する時代だと思います。国籍などは関係ないのです。

皆様にはこれからも学業に励んでいただき、すばらしい学生生活を過ごしていただきたいと思います。ドイツにいらしたときは必ずご連絡ください。私は筑波大学の名誉博士として、筑波大学の学生がベルリンにいらしたときは必ず、ベルビューの公邸に皆さんをお招きしたいと思います。お待ちしておりますので、今後もすばらしい学生生活を送られることを心より願っております。

(了)